

令和3年度第2回 協力病院連絡会議(報告)

日時:令和3年 12月 10日(金)

16:00～17:25

Zoom 会議

出席者:教育協力病院・関連病院 計 41 病院



定刻通り開会し、
森医学教育部門長が進行を担当した。

(議題)

1. 臨床実習ガイドラインについて・・・資料No.1

森医学教育部門長より、「ガイドラインにおいて臨床実習生のサークル活動の禁止を定めているが、感染状況が落ち着いている状況でもあり、活動再開の可否について皆さんのご意見を伺いたい。」と説明があった。

これについて、参加病院から以下の意見が挙げられた。

- ・ 当院は届出制でサークル活動を行っている。信大も同様で良いと考える。
- ・ 下級生と交流する活動については配慮していただきたいが、ガイドラインを守っている学生は、活動を再開してもよいと考える。
- ・ 当院は野球のサークル活動を解禁している。
- ・ サークル活動そのものよりも、会食が心配。この点に配慮がなされていれば、活動は認めて良いと考える。
- ・ 学生時代のサークル活動も大事だと考える。感染対策を講じていれば、活動は許されると思う。

森医学教育部門長から「臨床実習生のサークル活動再開に対し、積極的な反対意見はなかったと思われる。アルコール解禁を伴わない方向で、ガイドラインの改定を考えたい。」と発言があった。

(報告)

1. 担当症例数について・・・資料No.2

森医学教育部門長より資料に基づき説明があった。併せて、「コロナ禍にもかかわらず、昨年同様の症例を担当させていただき、感謝している。」とお礼が述べられた。

2. 150通り実習第1～第2タームの学生の感想・・・資料No.3

森医学教育部門長より「今期から、アンケート用紙に記入して提出する方法から、ネット経由での提出に変更した。臨床実習生全員からの回答を得ている。是非お目通し願いたい。」と発言があった。

本会議に引き続き卒業臨床研修管理委員会を開催した後、参加した全病院からヒアリングを行った。挙げられた意見要望は以下の通り。

- ・ 臨床実習生に優しく接する患者さんが多い。我々は医師の働く姿を見せていきたい。
- ・ 学生は一生懸命実習に取り組んでいると感じる。致し方ないが、コロナ禍により学生との交流することができず残念。
- ・ 熱心な学生がいる一方、自習室に引きこもる学生もいて、差があると感じる。

- ・ 学生の感想を参考にして指導に活かしたい。
- ・ 医学教育研修センターが考える実習生一人当たりの担当患者は何名くらいか？（森医学教育部門長より、「定めはないが、個人的には2-3名担当させていただければ、と考える」と回答）
- ・ 病院機能評価受審時に、サーベイヤーが予告なしに臨床実習生にヒアリングした際も、丁寧に対応してくれて感謝している。
- ・ 150通りの配属学生が増えて、院内が活気づいている。今後も受け入れ体制を整えていきたい。
- ・ コロナ患者を受け入れているが、臨床実習生との動線を分ける等、配慮して対応している。
- ・ 学生が東京への病院見学を希望した場合は、どう対応すればよいか。（森医学教育部門長より「現状では、150通りの実習中は、実習を休んでの病院見学は禁止している。選択臨床実習では、2日までの欠席は認めている。」と回答有り。）
- ・ 事前連絡が早い学生が多く、また、欠席連絡もできており、良い。
- ・ 臨床実習生の配属が、研修医の刺激になっている。
- ・ 事前連絡が遅い学生、集合時間に遅れる学生がいる。生活面から指導していきたい。
- ・ 救急では、臨床実習生が血液培養を担当している。ぜひ、選択臨床実習での配属も願いたい。
- ・ 実習謝金を臨床実習生の食事券等に充てているが、謝金の支払いは大学によって差があるように感じるが、どのような定めなのか。（森医学教育部門長より「数年前に全国病院長会議でアンケートを実施した結果では、大学により統一がされていなかった。本来なら、そのような会議・機関で示されるとよいと考える。」と回答有り。）
- ・ 研修医と臨床実習生が一緒だと、学びが深まると感じている。
- ・ 他大からも臨床実習生を受け入れているため、学生同士も刺激になっていると思う。積極的に外来に出てもらい、戦略的な外来の力がついていると感じる。
- ・ コロナ感染拡大で、暫く実習生受け入れを中止していたが、再開できた。学生がいると病院に活気が出る。
- ・ 多彩な疾患や多種職連携ができた、との感想があり、指導が役立っているようでうれしく感じる。宿舎への要望があるので、対応を考えていくべきか、と感じている。
- ・ 訪問看護や在宅診療で地域に出ることを学生に喜んでもらっている。同行する職員も喜んでおり、士気が上がっているように感じる。

久保外部委員より「コロナ禍にもかかわらず、実習が実施されていたありがたい。県内推薦枠での入学者が県内に残らないのは如何かと思う。専門研修を信州大学で受ける等の誘導も今後は必要か、と感じた。」と講評があった。

信州SP研究会代表の白澤様より、「生活面でのご指導もいただき、感謝している。信州SP研究会は今後も医学教育に協力していきたい。」とご挨拶があった。

増田卒後臨床研修部門長の閉会の挨拶を以て閉会した。

以上